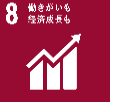


令和7年度 施策評価シート

施策の大綱	2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実	評価担当者
基本施策	(3) 高齢者の地域生活支援の充実	健康福祉部長 豊田 昌子
目指す姿	高齢者が、必要な介護・福祉サービスを受けながら、住み慣れた地域で安心して暮らしています	
関連する分野別計画	亀山市高齢者福祉計画	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	   
SDGs推進の考察	生活支援体制の整備や介護予防に取り組むとともに、医師、看護師等のコメディカル、介護職による在宅医療・介護連携や認知症施策を推進するなど、高齢者が地域で安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。また、サロン活動等で、仲間づくりや生きがいづくり、社会参加を進め、地域における見守りや支え合いの活動、シルバー人材センターを支援し、高齢者の就職機会の確保を図っている。

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策 の方向	事業名	上段:予算額	実績・成果等
		下段:決算額	
①	介護保険地域支援事業(総合事業)	22,331	介護予防・生活支援サービス事業と一般介護予防事業を実施し、高齢者が介護予防に取り組むことができる環境を整え、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援した。
		18,853	
①	介護保険地域支援事業(任意事業)	20,271	要支援者・要介護者及び要介護者等を介護する家族等を対象に、必要な支援を提供することができた。また、認知症高齢者の地域での見守り体制の充実を図り、高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していく環境の整備につながった。
		18,453	
①	地域包括支援事業(社会保障充実分)	27,731	在宅医療と介護の連携提供体制の強化や、生活支援コーディネーター配置による生活支援体制の整備、認知症施策を推進するなど、地域包括ケアシステムの推進に向けて取り組み、高齢者が安心して暮らせる地域づくりに寄与した。
		23,982	
②	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業	7,644	各関係機関や庁内関連部署との連携を図り、リスクの高い高齢者への医療専門職による個別支援やフレイル予防普及啓発により、高齢者の重症化予防、生活機能の改善を図ることができた。
		7,187	
③	団体支援事業(在宅高齢者介護支援事業)	2,073	20の老人クラブに補助金を交付し、高齢者のボランティア活動等の地域を豊かにする社会活動や生きがい健康づくり活動等を促進することができた。
		1,799	
③	福祉事業(在宅高齢者介護支援事業)	3,362	1,669人の障害者控除対象者認定を行い、在宅高齢者の安全・安心な生活を支援することができた。
		3,260	
③	給付事業(在宅高齢者介護支援事業)	1,379	敬老祝品を280人の高齢者に贈呈し、長寿を祝福した。日常生活用具(火災警報器2個、電磁調理器1台)を給付し、認知症高齢者15人(3月末時点)の個人賠償責任保険に加入するなど、在宅高齢者の日常生活の便宜及び介護者の負担軽減を図ることができた。
		996	
③	高齢者タクシー料金助成事業	700	タクシー券を112人に交付し、対象者の社会活動の促進を図ることができた。
		526	
③	地域団体支援事業(シルバー人材センター)	11,400	シルバー人材センターを支援することで、高齢者の就業機会を提供し、生きがいの充実や社会参加の促進を図ることができた。
		11,400	
④	地域介護・福祉空間整備事業(国定額)	4,950	施設の老朽化に対し大規模な修繕を実施したことで、入居者の安心・安全を確保することができた。
		4,950	

太字:主要事業

■成果指標

指標		単位	現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	かめやまホームケアネット登録者数(累計)	人	130	R2	205	232	242	247	320
2	総合事業で高齢者に通いの場を提供する地域の団体等の数	団体	115	R2	102	103	105	126	120
3	認知症初期集中支援チームの高齢者及びその家族への支援件数	件	24	R2	52	51	54	65	50
4									
5									
6									
7									
8									

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察 (令和6年度施策評価内容を参考記載)
1	高齢者が生きがいを持って安心して生活できる環境が整っている	重要度	1.24	1.40	1.26	
		満足度	▲ 0.53	△ 0.46	▲ 0.55	
2	高齢者への介護サービスが充実している	重要度	1.34	1.42	1.35	
		満足度	▲ 0.05	△ 0.03	▲ 0.09	
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				いずれの項目についても、重要度が高く、満足度が低い状況が続いている。また、年度によって変動はあるものの、「高齢者への介護サービスが充実している」の満足度については、全体平均をやや上回っている。
		満足度				

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 地域包括ケアシステムの推進	地域包括支援センターを核とし、ニーズに応じた医療・介護のサービス提供体制の強化に努めた。生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の見える化に努めた。
② 介護予防の推進	高齢者が気軽に参加できる活動の場づくりを進めるとともに、地域における「ちょこボラ」活動を支援した。また、保健事業と介護予防の一体的な取り組みを進めることができた。
③ 高齢者の生活と生きがいづくりの支援	サロン活動による社会参加や地域の支え合い活動を支援し、介護用品給付等で高齢者と家族の生活支援の充実を図った。また、シルバー人材センターを通じた就労機会を提供した。
④ 認知症高齢者等対策の推進	各関係団体と協働し、認知症への理解促進や知識の普及啓発及び早期発見・治療の重要性について周知した。また、認知症カフェの支援など、認知症の人や家族を支援した。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

「地域包括ケアシステムの推進」については、講演会の開催や、多職種の情報共有ツール「バイタルリンク」を活用することで、医療・介護の連携の強化につながった。「介護予防の推進」については、令和7年度から新たなアプローチとしてフレイルチェック事業を展開するとともに、介護予防教室等の開催により、介護予防につながる取り組みを推進した。また、疾病の発症リスクの高い高齢者の健康状態や生活機能の課題に対するハイレスクアプローチを高齢者の保健事業と介護予防として一体的に実施し高齢者の健康増進を図ることができた。

「高齢者の生活と生きがいづくりの支援」については、高齢者の相談等に対し、市内3か所の包括支援センター(基幹1、地域2)を窓口として、重層的支援体制により複合的な課題を抱える個別ケースの対応強化を図った。一方、シルバー人材センターや老人クラブなど組織や会員の減少が続いており、引き続きの課題となっている。「認知症高齢者等対策の推進」については、認知症初期集中支援チームによる認知症高齢者やその家族支援を行いつつ、図書館での啓発や、関係機関と連携し作成した「認知症ブックレビュー」の小冊子を配布するなど、認知症サポーターの継続的な養成と併せて市民への正しい理解促進と普及啓発に努めた。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

令和9年度から3年間を計画期間とする第10期介護保険事業計画の策定については、両市の実情に応じた高齢者施策が反映できるよう、鈴鹿亀山地区広域連合と調整を図っていく。高齢者の増加や多様化・複雑化する相談内容に対応するため、引き続き地域包括支援センターと連携し、地域包括ケアシステムの深化・推進の取り組みを進める。また、フレイルチェックを活用したポピュレーションアプローチの強化を図るとともに、シルバー人材センターと連携した「けんこうマイレージアプリ」の活用促進や、地域のサロンや老人クラブの活動への継続支援により、高齢者の活動促進に取り組む。成年後見制度については、機会を通じた制度周知を図りながら、認知症高齢者の権利が損なわれないよう必要な支援に取り組む。